日本金融学会 2023 年度春季大会国際金融パネル

パネリスト　ニッセイ基礎研究所　高山　武士

「日米欧のインフレの要因について」

要旨

先進国を中心に世界的にインフレが進行しているが、物価上昇の様相は各国ごと異なる。例えば、日米欧の消費者物価については以下の特徴がある。

米国では、エネルギーや財インフレは比較的早期にピークアウトしたが、サービスインフレは高止まりしている。欧州（ユーロ圏・英国）でも、エネルギーインフレのピークアウトが見られる。一方で財やサービスインフレは高く、特に英国のサービスインフレが高水準にある。日本は欧米と比較すれば、全体のインフレ率が低く、とりわけサービスインフレが低水準である。

インフレに影響を及ぼす要因のうち、為替相場に着目すると、22 年以降、対ドルレートでは円やユーロ、ポンドが減価し、特に円安進行は顕著だった。名目実効レートで見ると、ポンド安は限定的であり、ユーロは増価しているので、日本は欧州と比較しても自国通貨建ての輸入物価の上昇圧力が生じやすい環境だったと見られる。なお、ユーロ圏では、貿易決済通貨に占めるユーロの割合が多いために、輸入物価への影響が抑制されている点にも留意する必要がある。